

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	宮 崎 県 児 湯 郡 川 南 町 立 川 南 小 学 校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	2	3	3	2	3	1	18	24
児童数	94	58	85	92	66	88	2	485	

研究の概要

1. 研究主題

<p>児童が生き生きと活動し，確かな学力を身に付ける教育活動の研究 ~ 基礎・基本の定着を図るための，個に応じた特色ある教育活動の展開を通して ~</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・算数 全学年にわたって児童の理解・定着の状況に個人差があり，基礎・基本の定着を図るための個に応じたきめ細かな指導が必要であると考えたため。</p>

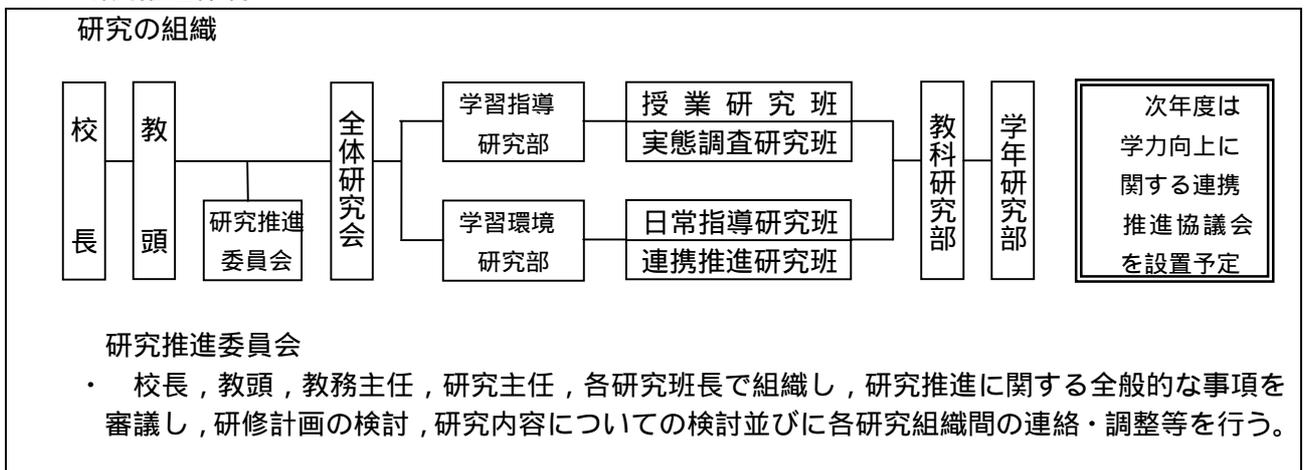
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>算数科における個に応じた指導に関する理論的事項の推進 本校の特色を検討し，各種の実態調査・分析を基盤としながら，算数科における「個に応じたきめ細かな指導」に関する理論的事項の研究推進を図る。</p> <p>研究仮説</p> <p>授業研究に関する仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人の個に応じたきめ細かな指導の具現化を図るために，学校の実情等に即した特色ある習熟度別指導や少人数指導等の学習指導法の工夫・検討を行えば，児童は学ぶ意欲や喜びを高揚させながら主体的に学習に取り組み，基礎・基本の確実な定着につながるであろう。 <p>実態調査研究に関する仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人の学力や学習意識等に関する実態を把握するために，学習内容や領域の理解に関するきめ細かな分析や多様な観点に基づく効果的な実態調査並びに評価等をはじめとする指導計画に関する工夫・検討を行えば，個や全体に応じた適切な指導に生かすことができるであろう。 <p>日常指導研究に関する仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業以外の日常の継続的な学習活動の充実を図るための効果的な手立ての工夫・検討を行えば，児童は学習の方法や習慣を身に付け，学力向上に関する学習環境の視野や意識を広めることができるとともに，基礎・基本の確実な定着につながるであろう。 <p>連携推進研究に関する仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的な生徒指導や保健指導に基づく中学校との系統性を考慮した望ましい連携や，学習意欲の高揚を図るための家庭や地域社会との望ましい連携の工夫・検討を行えば，児童にとっての学習活動の望ましい環境が整備されるであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <p>授業理論研究に関する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習過程の工夫・検討（各教科の学習訓練事項等も含む） 少人数指導の在り方・実践（均等・習熟度） 一斉指導における個に応じたきめ細かな指導の在り方 主体的な学習を促すための学習の進め方に関する学習内容の在り方 授業における評価の在り方(自己評価・他者評価・相互評価・他)
--------	---

平成15年度	<p>実態調査研究に関する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ N R T ・ C R T の分析に基づく重点領域の設定 ・ 実態調査方法の工夫・検討（独自のテスト・アンケート） ・ 評価規準表の作成（重点指導領域における1単位時間ごとの評価規準表） ・ 重点指導領域に関する具体的な問題の作成(全学年) <p>日常指導研究に関する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝自習等における日常指導の手立ての工夫・検討 ・ 基礎学力の定着を図るためのワークシート等の工夫・検討・作成 ・ 児童の学習意欲の喚起を図るための学習環境の整備・各種教材の製作 ・ 豊かな語彙力と情操を育むための読書指導の手立ての工夫・検討 <p>連携推進研究に関する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校との連携推進関連(授業交流・学力向上に関する小中合同の協議) ・ 家庭・地域社会との連携推進関連(学力向上推進協議会の発足計画) ・ 家庭学習の充実を図るための手立て(本校なりの指針を明確にさせて啓発) ・ 学力向上関連通信の製作・発行(文書による啓発・ホームページの開設計画) <p>授業実践研究に関する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全学年における少人数指導の計画的な実践(少人数指導担当教員を交えて) ・ 日常における学年間での計画的な授業参観(算数科)
--------	--

平成16年度	<p>算数科における個に応じた指導に関する実践的事項の推進 算数科における「個に応じたきめ細かな指導」に関する実践的事項の研究推進を図りながら、基礎・基本の確実な定着を基盤とした確かな学力育成の具現化を目指す。</p> <p>研究仮説 各研究事項において、改善や実践的事項の充実の視点から見直しを検討中。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>授業理論研究に関する内容(追加予定事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一斉指導における個に応じたきめ細かな指導の在り方 <p>実態調査研究に関する内容(追加予定事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価規準表の完成(全学年・全領域・全単元) <p>日常指導研究に関する内容(追加予定事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導に関する学習内容及び指導体制及び教材開発 <p>連携推進研究に関する内容(追加予定事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中合同の学力向上に関する連携推進協議会の設定 <p>授業実践研究に関する内容(追加予定事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全学年における少人数指導・習熟度別指導充実の手立ての検討 ・ 日常的・積極的な学年間の授業研究交流の実施
--------	--

(3) 研究推進体制



全体研究会

- ・ 研究推進委員会で検討された研究内容や実践事項，または，班別研究会からの提案等について全体で協議・検討し，研究に対する共通理解を図り，理論研究や作業等を通して主題に迫る。

班別研究会

- ・ 授業研究班，実態調査研究班，日常指導研究班，連携推進研究班で組織し，研究主題の具現化を図るための研究内容や実践事項の企画・立案・提案並びに評価等を行う。

部別研究会

- ・ 教科研究部，学年研究部で組織し，全体研究会や班別研究会からの提案を受けて，授業研究会や教科に関する事項や評価基準に関連する事項等の分析・検討を行う。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

授業における学習過程が確立されたことで，児童の主体的な学習活動が充実するとともに，本校なりの少人数指導や習熟度別指導等の学習形態の工夫・検討も充実し，個に応じたきめ細かな指導の改善を図ることができた。

算数科における児童の実態把握に努めた結果，指導の重点化を図る領域も明確になるとともに，指導重点領域における評価規準表の作成により，1単位時間ごとの授業における評価規準も明確になり，その後の指導に速やかに生かすことが充実することになった。

算数科における授業以外の日常的な場面における習熟や定着を図るための教材開発や機会設定の在り方が充実するとともに，算数科に親しんでもらうための効果的な学習環境の整備も充実し，基礎・基本の学力定着に貢献する結果となり，児童の興味・関心も高まってきた。

学力向上に関する中学校や家庭との連携推進に努めた結果，中学校との授業交流や共通理解が深まるとともに，保健面から学力向上を支える視点での家庭との連携も深まり，学校をとりまく幅広い分野から総合的に学力向上に取り組む基盤が整備されることになった。

年間を通して，計画的に全学年にわたる少人数指導や習熟度別指導が実施され，学習形態の工夫に基づく個に応じたきめ細かな指導の充実を図ることができた。

2. 今後の課題

一人の指導者での一斉指導における「個に応じたきめ細かな指導」の手立ても工夫し，あらゆる学習形態においても確かな学力向上が図られるための方策を検討する必要がある。

算数科における評価規準の作成を充実させ，算数科の全ての授業において明確な評価規準をもとに，全学年で一貫した「指導と評価の一体化」の具現化を図る必要がある。

基礎・基本の定着を図るための日常指導における習熟の機会を充実させるための教材開発をさらに推進するとともに，児童がより主体的に関わる学習環境面の整備も検討する必要がある。

中学校・家庭・地域社会との連携推進を図るための小中合同協議機関の設定を検討し，小中で一貫した指導体制のもとで学力向上に取り組む組織づくりを検討する必要がある。

指導力向上を図る目的での全体及び学年間における授業研究の機会をさらに充実させ，日常的に授業研究が推進されるような学校の研究推進体制を確立する必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

算数科及び少人数指導に対する児童の意識調査

学習意欲，児童が望む授業形態や指導方法等について調査 ～ 6月に実施

N R Tの分析(本年度実施分)

前年度分の学習内容の定着度合を把握する目的で実施

- ・ 学級単位で領域・単元別の到達度を分析・考察 ～ 夏季休業中に実施

C R Tの分析(前年度実施分)

前年度分の学習内容の定着度合を把握する目的で実施

- ・ 学級単位で領域・単元別の到達度を分析・考察 ～ 夏季休業中に実施

算数科及び少人数指導に対する児童の意識調査

学習意欲，児童が望む授業形態や指導方法等についての変容を調査 ～ 3月に実施予定

C R Tの分析(今年度実施分)

今年度分の学習内容の定着度合を把握する目的で実施

- ・ 学級単位で領域・単元別の到達度を分析・考察 ～ 3月に実施予定

単元前のレディネステスト

指導重点単元において，関連する既習事の理解度を把握する目的で実施

- ・ 各学年において，年間を通して計画的に実施 ～ 随時

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

【平成15年度】

学力向上フロンティア通信の配布

保護者に学力向上の取組の様子についての学校通信を配布 ～ 随時

研究紀要の作成・配布

近隣の市町村の小中学校に配布 ～ 3月に配布予定

H Pの作成・発信

学力向上に向けた内容も含めた学校のH Pを3月中に作成し，発信の予定

【平成16年度】

研究紀要の作成・配布

近隣の市町村の小中学校及び研究公開参加者に配布 ～ 11月頃・配布予定

研究公開の実施

研究の成果を公開し，指導を仰ぎ，成果と課題を明確にする。 ～ 11月頃・実施予定

学力向上推進協議会(仮称)の開催

小中合同の形態で実施し，保護者や地域を交えた学力向上の取組について協議 ～ 随時

次の項目ごとに該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校

【学校規模】 13～18学級

【指導体制】 少人数指導

【研究教科】 算数

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 (平成15年度：1名)